2021 年 1 月吉日

～突撃★ドメーヌ最新情報！！～

◆VCN°26　ドメーヌ・ル・ブリゾー

生産地方：ロワール

新着ワイン 1 種類♪

VdF パタポン 2019（赤）

2019 年は、4 月中旬の霜の被害により収量が 80%減…。どの畑もほとんどブドウがなかったため、全て区画のピノドニスをかき集めて仕込んだ。前年同様に全房のブドウを最初のルモンタージュ以外ほとんどタッチせず、密封のまま 8 ヶ月ほどブドウを醸している。出来上がったワインは、前年よりもアルコール度数は高いが、味わいはむしろ前年よりもジューシーなみずみずしさがありとてもエレガントに仕上がっている！イチゴやフランボワーズの華やかな香りが全開で、赤い果実のピュアなエキスにもしっかりと旨味があり、そのまま優しい余韻につながる心地の良さが何とも言えない！これぞ往年のパタポンと言えるようなチャーミングな逸品だ！

ミレジム情報　当主ナタリー・ゴビシェールのコメント

2019 年は、霜の被害により収量がかつてないほど厳しかったが、ブドウの品質的には当たり年だった。冬のスタートは適度に雨が降り寒さもあったが、気温がマイナスまで下がることはなかった。4 月に入り、初旬と中旬の 2 回に渡り寒波が降りた。特に 4 月 13 日の霜の被害は甚大で、春に発芽した芽は全滅だった。その後副芽が出たが、辛うじてブドウを付けたのはピノドニスのみ。シュナンやコーはブドウを全く付けなかった…。その後は適度に雨の降る温暖な天候が続き、残ったブドウは遅れを取り戻すかのように一気に成長のスピードを上げた。開花は順調。6 月に入ると雨がぱたりと止み、乾燥した天気が収穫終わりまで続いた。また、6 月と 7 月の終わりには日中の気温が 40℃を超す歴史的な猛暑に見舞われ、ブドウの成長も途中から夏バテによりブレーキがかかってしまった。最終的に収穫できたブドウはピノドニスのみ。だが、品質的には、アルコール度数が高いわりに酸のしっかりとした素晴らしいブドウに恵まれた。

「ヨシ」のつ・ぶ・や・き

ナタリーに会いにいざ南へ！ナタリーの訪問の難しいところは、ロワールのドメーヌと南の現自宅兼カーヴを頻繁に行き来しながらネゴスとドメーヌのワインを管理しているので、今回のようにパタポンに関連したロワール情報を書きたくても、必ずしも自分の出張のタイミングに彼女がロワールにいるかどうか分からないという点がある。お互いのタイミングが今回唯一合ったのは南でのアポだったので、ネゴスの小ネタ情報となることを悪しからずご了承願いたい。

さて前置きはこれくらいにして、今回もまたいつものようにネゴスのブドウの状況を確認しにいざ畑に向かった。これはキュヴェ「エンジョイ」となるサンソーの畑の写真。（写真①）

写真①　樹齢 50 年を超えるサンソーの畑

ナタリーが言うには、2020 年も日照りが続いているが、サンソーは樹齢 50 年を超えるヴィエーユ・ヴィーニュで、根が地中深くまで届いているため水不足の心配は全くないようだ。写真を見ても分かるように、ブドウの葉の青さと地面の荒涼とした渇きのコントラストがブドウの生命力の強さをよりはっきりと浮かび上がらせる。畑の中を歩き回ると、雑草の中でもとりわけ気になる植物が歩くたびに目に入った。

これがその雑草の写真。（写真②）見た目はニワトコに似ているが、ナタリー自身も何の植物か分からないそうだ。「これはアカシアや野ばらのように乾燥した土地でも簡単に根を張り増殖していくとても厄介な植物で、放っておくとまるで細い木のように高く成長する。除去するには手で一つ一つ根こそぎ抜かなければならなく、トラクターなどで切り落としても地中に根が残っている限りまた生えてくる」と彼女はその生命力の強さを説明してくれた。

写真②　ナタリーを困らせている生命力の強い雑草

写真③　この大きさだとかなり引き抜きに力が必要

ナタリーが試しに除去し忘れたこのニワトコのような植物を引き抜いた。（写真③）自分も試してみたけど、確かにナタリーが手に持つくらいの大きさの植物を抜こうとするとかなり力がいる。しかも葉を触ると何とも言えない不快な香りがする。彼女は春に一度、夫のエミールと二人でまだ小さい段階の植物を一つ一つ鍬で丁寧に除去したそうだが、見渡すとまだ所々に残っている。「かれこれ毎年伐根しているので今は数が少ないが、手入れをしないで放っておくと本当に大変なことになる」と、彼女は除草剤だけ撒いてほぼ畑作業をしない隣のブドウ生産者の畑を比較のために見せてくれた。

これが隣人の畑。（写真④）見た途端あまりの衝撃的な光景に一瞬言葉を失った…。ブドウの木が覆い隠されるくらいニワトコに支配されている！確かに、近くで見ると雑草というよりも細い木そのものだ。ちなみに、エミールが言うには、この植物は昔から存在していたわけではなくここ最近増えてきたものなのだそうだ。まるでホラー映画を見ているようなちょっと寒気のする光景だった。写真①のナタリーの畑と比べてみたら一目瞭然だが、彼女の畑は本当に良く手入れされている！

写真④　ジャングルのようになっている隣人の畑

当初、ナタリーがロワールと南仏を行き来しながら２つの畑を管理することに対して一抹の不安があったが、今回良く手入れされたナタリーの畑を見て正直安心した。今回のパタポンのレベルも然りだが、彼女のつくるこれからのワインがますます楽しみになった♪

（2020.7.23.のドメーヌ突撃訪問より）

※弊社ＨＰ「フォト・ギャラリー」より、カラーでサイズの大きい鮮明な写真をぜひご覧くださいませ